

# 文化財調査報告書

調査日：平成24年7月8日

- |         |                                     |
|---------|-------------------------------------|
| 1 種 別   | 無形民俗文化財                             |
| 2 名 称   | 千倉の三番叟                              |
| 3 員 数   | —                                   |
| 4 指定年月日 | 昭和45年1月30日                          |
| 5 伝 承 地 | 南房総市千倉町忽戸・荒磯魚見根神社<br>南房総市千倉町平磯・諏訪神社 |
| 6 伝 承 者 | 忽戸三番叟保存会<br>平磯式三番叟保存会               |

## 7 現状及び環境

平成24年7月8日の祭礼にあわせて、現状の調査と若干の聞き取りを行った。日程はいずれも本来の祭日ではなく、千倉町で統一した7月第二土・日曜日に変更されている。

当地の三番叟は神社祭礼の奉納芸であり、小学4～6年生の男児3人が演じている。かつては両親の揃った長男との選定条件があつて、しかも人数が多かった頃には選ばれない者もいた。しかし、現在は少子化の影響で人数が少ないことからそうした制限は取り払われ、さらに4年生=千歳、5年生=翁、6年生=尉と、該当者は年齢順に3年間にわたって、演じることになった。

練習はかつての経験者が師匠となつて、忽戸では祭礼前の2か月ほど前から曜日をきめて、平磯では20日ほど前から毎夜行われている。

忽戸では今年も小学4～6年生の3人が演じており、男児の数は減ってはいるが、とりあえず伝承していくだけの人数確保ができていているという。こうしたことから、今後もこの体制で継承されていくことができると考えている。

一方、平磯はすでに危機的状況にある。今年は5年生と6年生だけで4年生がいないため、やむを得ず不足した1人を師匠が代わりに参加することとなった。翁の衣裳は大人でも着用可能な寸法であることから、翁を師匠が演じた。来年はさらに1人減ってしまい、これから数年は適齢者がまったくいない状況が生じることとなりそうだという。

保存会の会長を区長が引き受けており、地区を上げて三番叟を伝承しようとの意識は感じられるが、人口減少・少子化は深刻であり、いかんともしがたい難問である。

特に平磯ではすでに大きな影響を受けており、差し迫った判断が必要となっているが、  
忽戸においてもいずれ直面する問題であろう。

その対策として、伝承者の対象年齢を広げることができないかとの質問に、練習期間がかなり必要なことから、中学生はクラブ活動や勉強が忙しくて時間が確保できないこと、逆に年齢の低い子供（小学3年生以下）は語りが難解であり覚えるのが大変なことから、実際には難しいとしている。といっても、神事性が強いことから女兒に門戸を開くことは考えていないようである。

あくまで後世への伝承を優先して年齢・性別・地域などの制限を取り払って伝承者を確保していくのか、あるいは神事性を重要視して欠員を大人が埋めながら次の子供が現れるまで繋いでいくのか、具体的に考えねばならない事態となっている。

## 8 芸態の変化

もともと南房総地方で盛んであった歌舞伎芝居の一部として、舞台の浄め祓いとして行われていた幕明けの三番叟であるが、昭和30年代以降に歌舞伎が途絶えてからも、その神事性ゆえに三番叟のみが残り伝承されている。

## 9 取り扱い上の留意事項

特になし

## 10 公開にあたっての取り扱いについて

特になし

## 11 その他参考にすべき事項（これまでに作成された記録）

- (1) 榎美香「安房地方の歌舞伎芝居」『千葉県民俗芸能』1995年 千葉県立房総のむら（編） 千葉県教育委員会
- (2) DVD『千葉県民俗芸能(3) 三番叟』2007年 千葉県民俗芸能連絡協議会（企画）・千葉県教育委員会（協力）
- (3) 記録映像『千倉の三番叟』平成14年 千葉県教育委員会（企画）・(株)プロダクション135（製作）・千葉県教育委員会（協力）

# 千倉の三番叟

## (1) 忽戸三番叟保存会



三番叟(尉) 準備風景



翁



三番叟(尉) と千歳の掛け合い



翁



三番叟(尉)

(2) 平磯式三番叟保存会



三番叟(尉) 準備風景



翁



三番叟(尉) と千歳の掛け合い



翁



三番叟(尉)